

貝塚市遺跡群発掘調査概要 42

2020. 3. 31

貝塚市教育委員会

はじめに

貝塚市は、大阪府の南部、泉州地域に位置し、北西は大阪湾に面し、東南は和泉葛城山を有する山間部であり、北西から東南に長くのびる市域形状を呈しています。

今日、私たちの暮らしを取り巻く環境は、開発とともに発展してきました。急速な開発は、自然環境に多大な影響を与え、さらに地下に眠る埋蔵文化財も消滅の危機に瀕しています。

埋蔵文化財は、私たちの歴史や文化の成り立ちを理解する上で欠くことのできない貴重な情報を提供してくれます。この貴重な情報を記録保存することにより将来の文化の向上発展に活かしていく必要があります。

近年、文化財を活用する取り組みが盛んに行われています。埋蔵文化財においても情報や資料の活用を図り、普及啓発に努めていきたいと考えています。

本書は、平成31年・令和元年中に実施いたしました緊急発掘調査の結果報告です。宅地造成や店舗建設等に伴い、事前に実施した発掘調査であり、市域の歴史・文化を知るうえで欠かせない成果を得ることができました。

発掘調査ならびに本書の作成にあたり、多大なご指導・ご協力を賜りました関係各位に対し、深謝するとともに、今後とも本市埋蔵文化財保護行政に対する一層のご理解をお願い申し上げます。

令和2年3月31日

貝塚市教育委員会

例 言

1. 本書は、貝塚市教育委員会が平成31年・令和元年に実施した大阪府貝塚市域における埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告である。
2. 本書所収の発掘調査は平成31年1月1日から令和元年12月31日の期間に実施したもので、調査は三浦基が行った。
3. 本書の執筆・編集は、三浦基が行った。
4. 出土遺物、調査記録は、貝塚市教育委員会において保管している。

凡 例

1. 図中の方位は磁北を示す。
2. 本書の土色表示は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帳』1990年度版を用いた。
3. 貝塚市遺跡分布図については、山間部の一部は掲載していない。

目 次

はじめに

例 言、凡 例

目 次（本文目次、挿図目次、図版目次、表目次）

第1章 平成31年・令和元年発掘調査概要	1
第2章 調査の成果	5
1. 石才遺跡	2018 - 04 区 5
2. 小瀬遺跡	2019 - 02 区 6
3. 麻生中下代遺跡	2019 - 03 区 7
4. 小瀬五所山遺跡	2019 - 04 区 8
5. 千石堀城跡	2018 - 05 区 9
	2018 - 06 区 11
6. 遺跡範囲外	2018 - 03 区 12
	2019 - 01 区 13
報告書抄録	14

挿図目次

- 図 1 貝塚市遺跡分布図（部分・貝塚市域のみ）
- 図 2 調査地位置図
- 図 3 調査地位置図
- 図 4 2018 - 04 区
- 図 5 2019 - 02 区
- 図 6 2019 - 03 区
- 図 7 2019 - 04 区
- 図 8 2018 - 05 区（①～⑥）、2018 - 06 区（⑦～⑧） 調査区配置図
- 図 9 2018 - 05 区 第 1 区～第 6 区
- 図 10 2018 - 06 区 第 1 区、第 2 区
- 図 11 2018 - 03 区
- 図 12 2019 - 01 区

図版目次

図版 1

石才遺跡（2018-04 区）

小瀬遺跡（2019-02 区）

図版 2

麻生中下代遺跡（2019-03 区）

小瀬五所山遺跡（2019-04 区）

図版 3

千石堀城跡（2018-05 区） 第 1 区

千石堀城跡（2018-05 区） 第 2 区

図版 4

千石堀城跡（2018-05 区） 第 3 区

千石堀城跡（2018-05 区） 第 4 区

図版 5

千石堀城跡（2018-05 区） 第 5 区

千石堀城跡（2018-05 区） 第 6 区

図版 6

千石堀城跡（2018-06 区） 第 1 区

千石堀城跡（2018-06 区） 第 2 区

図版 7

遺跡範囲外（2018-03 区）

遺跡範囲外（2019-01 区）

表目次

- 表 1. 平成 31 年・令和元年 試掘・確認調査一覧
（平成 31 年 1 月～ 4 月・令和元年 5 月～ 12 月）

第1章 平成31年・令和元年発掘調査概要

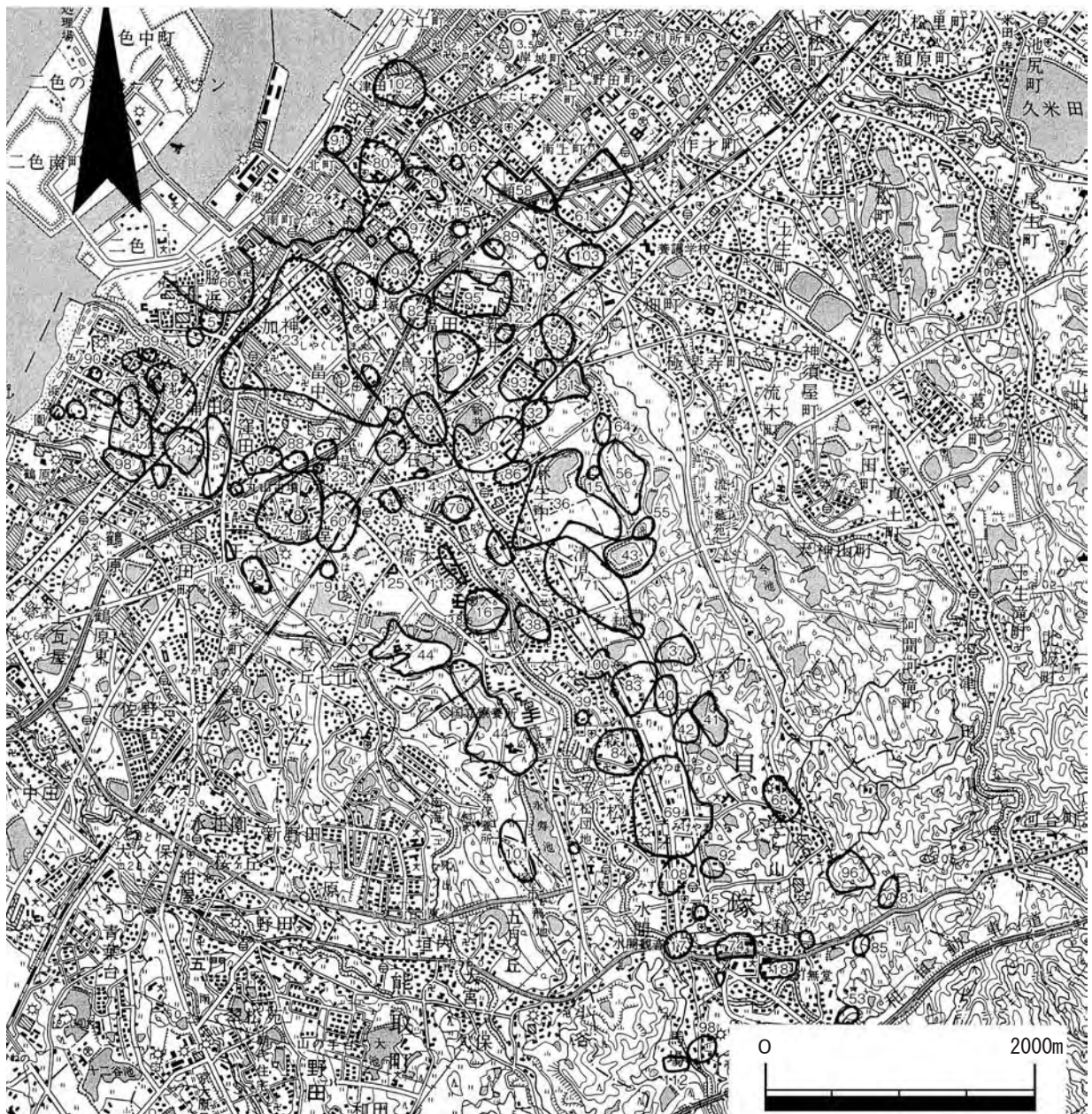
平成31年・令和元年の埋蔵文化財発掘届出及び通知の総件数は241件、遺跡外試掘調査依頼の総件数は9件である。届出・通知にかかわる対応について、確認調査は6件、立会調査は52件、慎重工事は179件、府にて対応が4件である。届出・通知の件数は前年より増加している。ただし、住宅に関わる届出の件数は減少傾向で、分譲住宅の届出件数は前年の31件から25件、個人住宅の届出件数は前年の86件から71件にそれぞれ減少している。また、宅地造成の届出件数は前年1件から7件と増加増加するとともに、共同住宅は前年2件から3件、店舗は前年2件から4件にそれぞれ、倉庫4件、事務所4件、福祉施設3件といった開発内容の多様化がうかがえる。

遺跡範囲外における開発は9件と前年に比べて5件減少している。目的は、宅地造成4件、共同住宅1件、倉庫1件、工場及び事務所1件、福祉施設2件である。

以下の表は、平成31年・令和元年中の試掘、確認調査一覧である。第2章で各調査の概要を示す。

	遺跡名	調査番号	調査	開発地
	(平成31年1～3月)			
1	遺跡範囲外	2018-03	試掘	王子460
2	石才遺跡	2018-04	確認	石才92
3	千石堀城跡	2018-05	確認	名越他地内
4	千石堀城跡	2018-06	確認	名越他地内
	(平成31年4月・令和元年5月～12月)			
5	遺跡範囲外	2019-01	試掘	王子439他
6	小瀬遺跡	2019-02	確認	小瀬1丁目225-1の一部
7	麻生中下代遺跡	2019-03	確認	鳥羽270他
8	小瀬五所山遺跡	2019-04	確認	永吉43-1他

表1. 平成31年・令和元年 試掘・確認調査一覧（平成31年1月～4月・令和元年5月～12月）



1. 沢新出遺跡 2. 沢海岸遺跡 3. 沢遺跡 5. 長楽寺跡 7. 地藏堂丸山古墳 8. 地藏堂廃寺 9. 下新出遺跡
10. 秦廃寺 15. 麻生中新池遺跡 16. 河池遺跡 17. 水間寺遺跡 18. 木積観音寺跡 20. 堀遺跡 21. 橋本遺跡
22. 貝塚寺内町遺跡 23. 加治・神前・畠中遺跡 24. 明楽寺跡 25. 沢共同墓地遺跡 26. 沢西出遺跡 27. 沢海岸北遺跡
28. 沢城跡 29. 新井・鳥羽遺跡 30. 新井ノ池遺跡 31. 半田遺跡 32. 麻生中遺跡 34. 澱池遺跡
35. 積善寺城跡 36. 清児遺跡 37. 集原池遺跡 38. 高井天神廃寺・高井城跡 39. 森城跡 40. 森B遺跡
41. 森ノ大池遺跡 42. 森A遺跡 43. 二ツ池遺跡 44. 千石堀城跡 45. 水間墓地 46. 三ヶ山城跡 47. 片山墓地
51. 窪田遺跡・窪田廃寺 53. 坊城遺跡 54. 三ツ松遺跡 55. 檜ヶ谷城跡 56. 半田遺跡(清児地区) 57. 堤遺跡
58. 小瀬五所山遺跡 59. 石才遺跡 60. 王子遺跡 61. 土生遺跡 64. 海岸寺山遺跡 66. 脇浜遺跡
67. 今池遺跡 68. 三ヶ山遺跡 69. 三ヶ山西遺跡 70. 石才南遺跡 71. 名越遺跡 72. 地藏堂遺跡 73. 名越西遺跡
74. 木積遺跡 75. 新井・鳥羽北遺跡 78. 沢西遺跡 79. 王子西遺跡 80. 津田遺跡 81. 三ヶ山オニ谷遺跡
82. 福田遺跡 83. 森下代遺跡 84. 三ツ松北垣外遺跡 85. 薬師池西遺跡 86. 麻生中出口遺跡 87. 小瀬遺跡
88. 堤三宅遺跡 89. 沢新開遺跡 90. 沢タナヅリ遺跡 91. 堀新遺跡 92. 橋池遺跡 93. 麻生中下代遺跡
94. 堀秋毛遺跡 95. 半田北遺跡 96. 沢老ノ塚遺跡 97. 東遺跡 98. 馬場遺跡 100. 鳥の池西遺跡 101. 白地谷遺跡
102. 津田北遺跡 103. 久保遺跡 108. 水間二ノ戸遺跡 109. 窪田ハマヅ遺跡 110. 海塚遺跡 111. 脇浜川端遺跡
112. 馬場笹力遺跡 113. 橋本野岸ノ下遺跡 114. 麻生中薬師堂遺跡 115. 谷池遺跡 116. 小瀬大道端遺跡
117. 石才通井口遺跡 118. 海塚宝伝遺跡 119. 小瀬与九郎遺跡 120. 王子大イケダイ遺跡 121. 王子ヨウサ遺跡
122. 半田ヨコマクラ遺跡 123. 堤西浦遺跡 124. 木積下代遺跡 125. 橋本原宮遺跡

図1 貝塚市遺跡分布図(部分・貝塚市域のみ)



図2 調査地位置図



図3 調査地位置図

第2章 調査の成果

1. 石才遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高 21 ～ 23 m に位置する縄文時代、平安時代～中世にかけての遺物散布地である。本市による 1981 年度の調査では中世の溝、柵列跡、平安時代の土坑を検出している。

2018-04 区の調査

調査期間 平成 31 年 2 月 20 日

調査面積 5.2 m²

今回の調査は、開発地内に調査区 (5.2 m²) を設定して実施した。本調査区の地層堆積状況は、上層より耕作土 (1、層厚 0.2 m)、にぶい黄褐色土 (2、層厚 0.15 m)、黄褐色土 (3、層厚 0.1 m) で、その下は明黄褐色粘土 (4) の地山である。地層堆積状況から判断して、第 2 層、第 3 層は、農地層と考えられる。また、地層は削り取られており、遺構は確認できなかった。遺物は、出土していない。

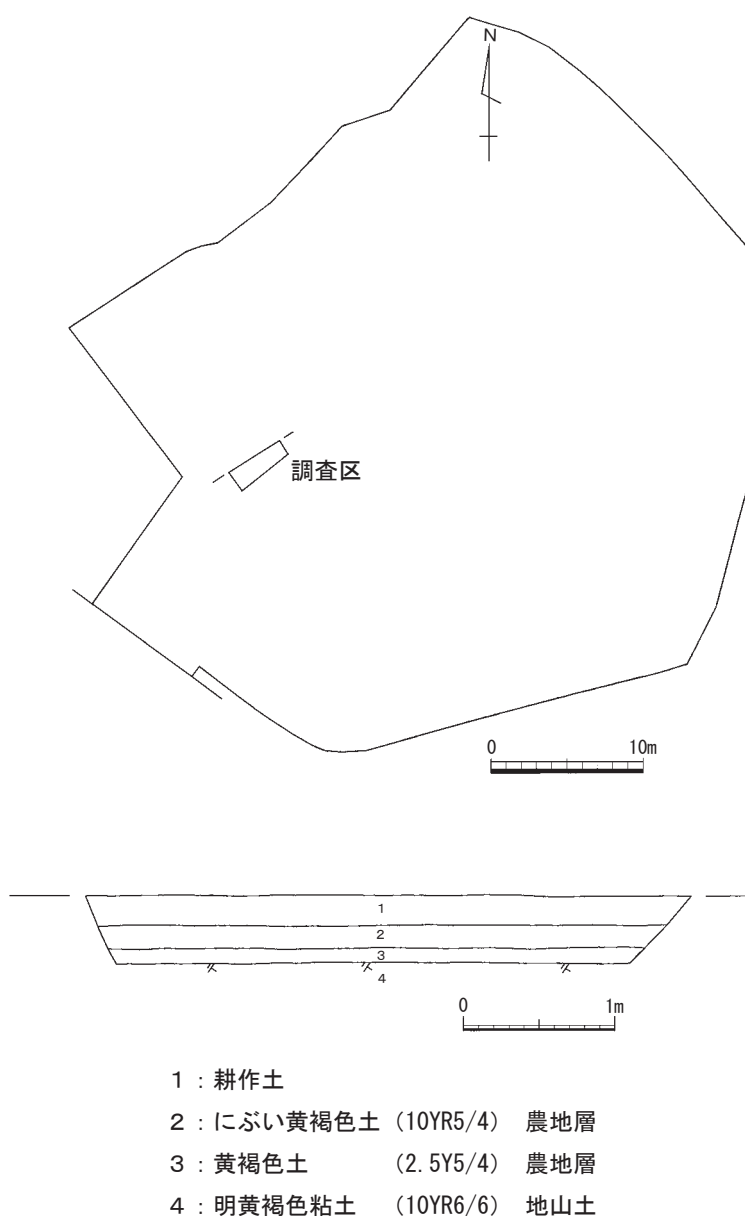


図 4 2018-04 区

2. 小瀬遺跡

本遺跡は、津田川左岸の中位段丘上、標高 15 ～ 16 m に位置する平安時代から近世にかけての集落跡である。本市では、1992 年（平成 4 年度）に申請地の南地点で発掘調査を実施しており、土坑、溝、掘立柱建物を検出している。

2019-02 区の調査

調査期間 令和元年 11 月 1 日

調査面積 4.0 m²

今回の調査は、開発地内に調査区（4 m²）を設定して実施した。本調査区の地層堆積状況は、上層より盛土（1、層厚 0.2 m）、耕作土（2、層厚 0.15 m）、オリーブ灰色土（3、層厚 0.4 m）、褐灰色土（4、層厚 0.15 m）、灰黄色粗砂（5）である。地層堆積状況から判断して、第 4 層以下は流路堆積層と考えられる。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

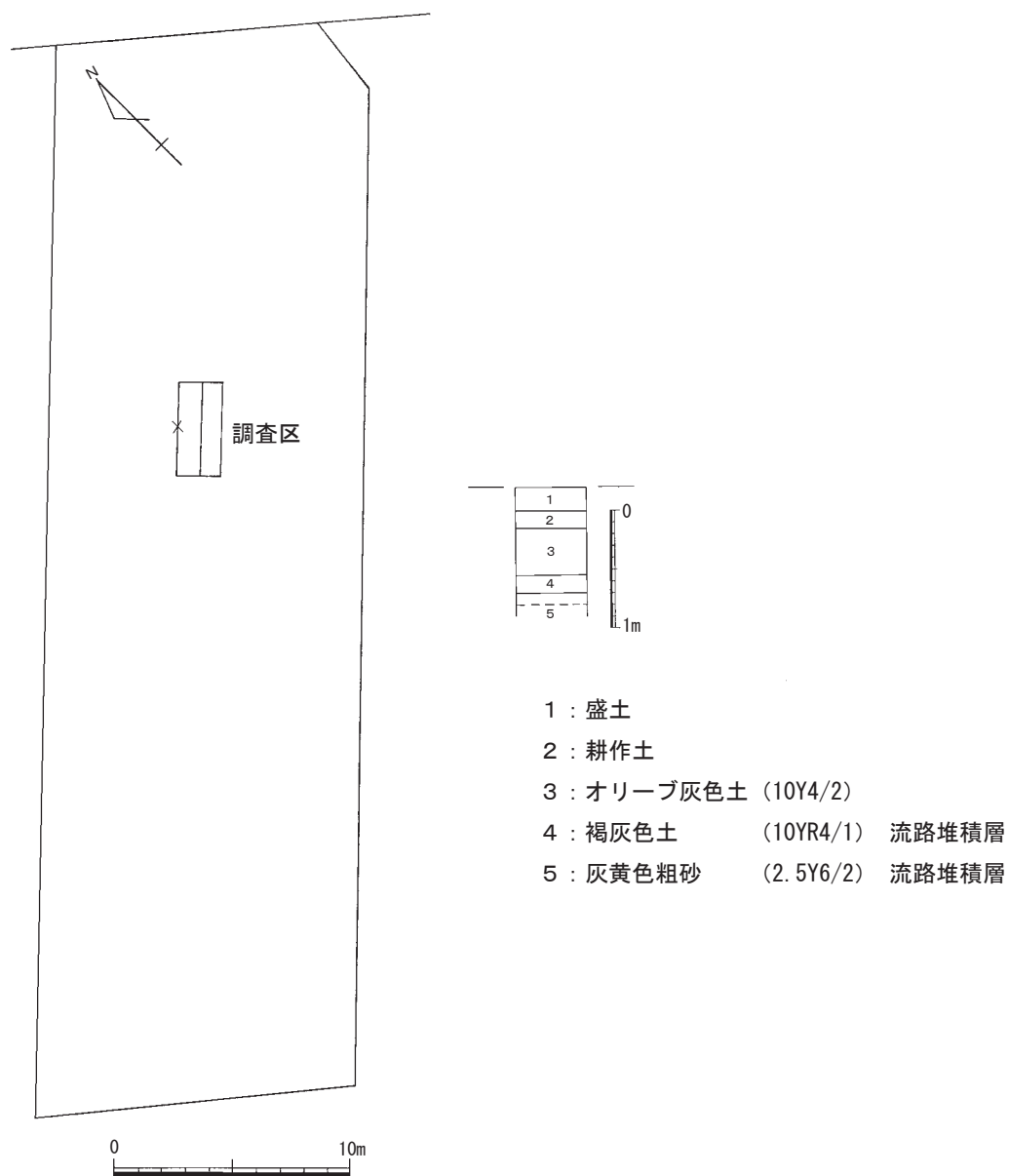


図 5 2019-02 区

3. 麻生中下代遺跡

本遺跡は、津田川左岸の中位段丘上、標高 26 ～ 27 m に位置する古墳時代、奈良～平安時代の集落跡である。府営半田住宅の建替え事業に伴い、平成 8 年度（1996 年）に大阪府教育委員会によって発掘調査が実施されている。主な調査成果として弥生時代の竪穴住居 1 棟、7 世紀前半から 7 世紀中葉の竪穴住居 9 棟、7 世紀後半から 8 世紀前半の掘立柱建物 11 棟以上を検出している。

2019-03 区の調査

調査期間 令和元年 12 月 5 日

調査面積 9.5 m²

今回の調査は、遺跡南端部分に位置する開発地内の道路部分に調査区（9.5 m²）を設定して実施した。本調査区の地層堆積状況は、上層より盛土（1、層厚 0.2 m）、耕作土（2、層厚 0.2 m）、にぶい黄橙色土（3、層厚 0.1 m）、灰黄褐色土（4、層厚 0.15 m）、明黄褐色土（5）の地山である。地層堆積状況から判断して、第 3 層、第 4 層は農地層と考えられる。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

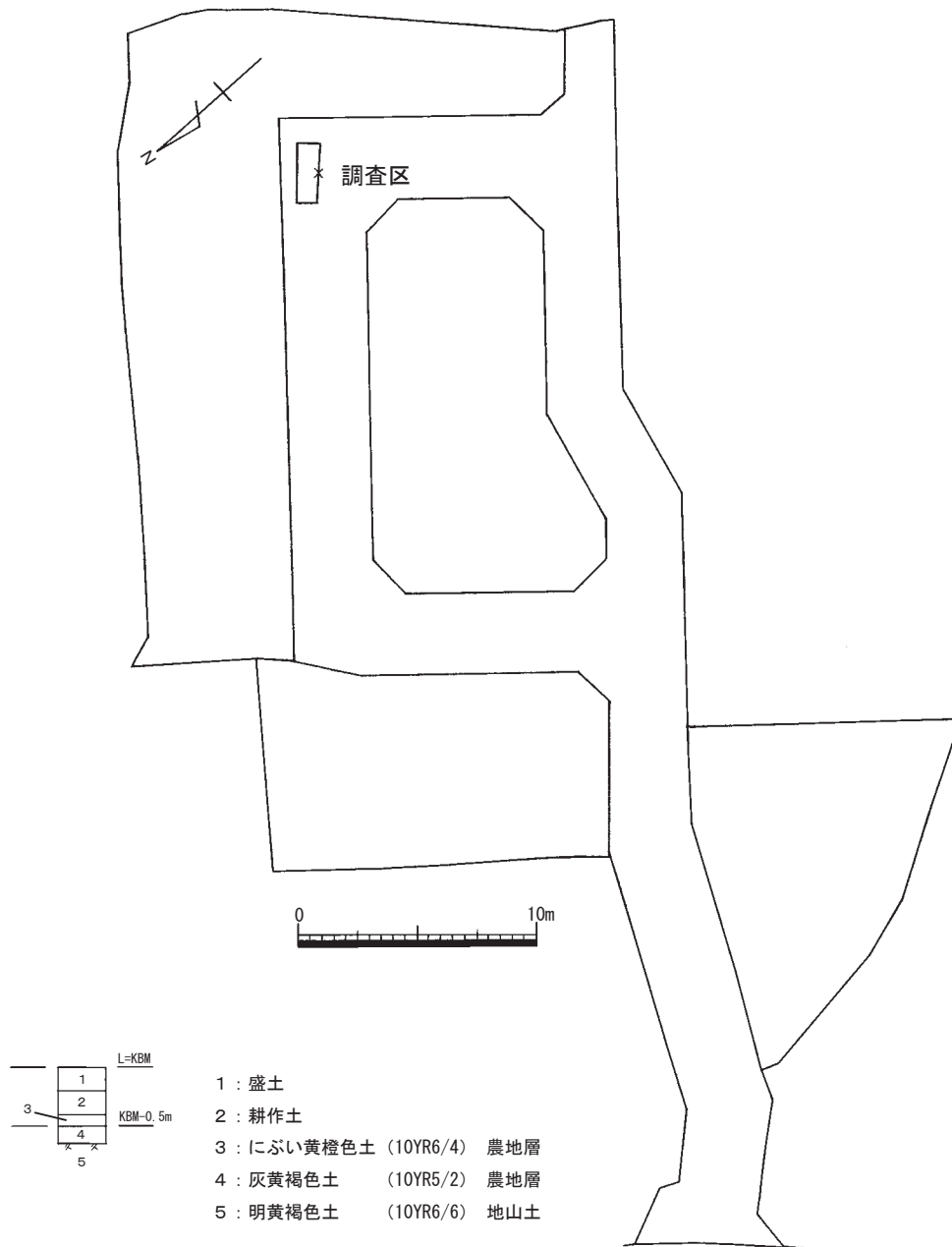


図 6 2019-03 区

4. 小瀬五所山遺跡

本遺跡は、津田川右岸下流域の河岸段丘上、標高は7 m～10 mに立地する。周知の遺跡として弥生～古墳時代・中世の散布地・集落跡である。本市による平成14年度（2002年）の調査においては、6～7世紀代を中心とする遺物が出土しており、溝2条、柱穴20基、土坑4基、掘立柱建物2棟等を検出している。

2019-04 区の調査

調査期間 令和元年12月6日

調査面積 6.0 m²

今回の調査は、開発道路部分に調査区（6 m²）を設定して実施した。本調査区の地層堆積状況は、上層より盛土（1、層厚0.45 m）、盛土（2、層厚0.85 m）、耕作土（3、層厚0.2 m）、灰色礫砂混じり土（4、層厚0.1 m以上）である。地層堆積状況から判断して、第4層以下は流路堆積層と考えられる。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

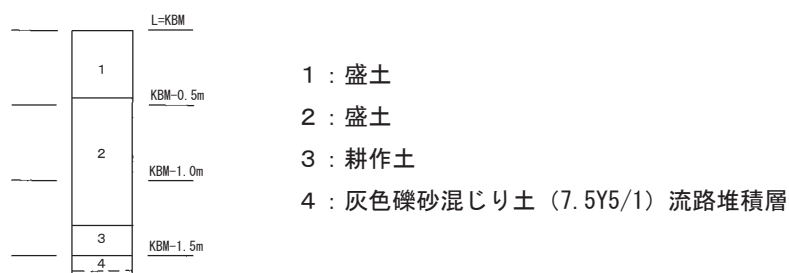
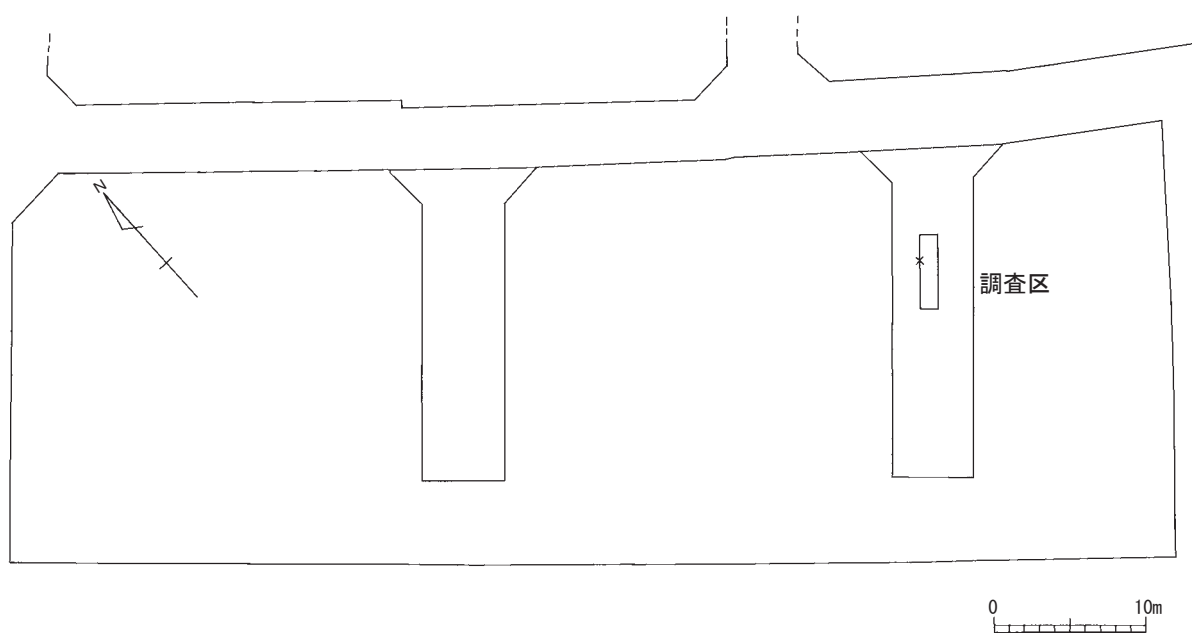


図7 2019-04 区

5. 千石堀城跡

貝塚市域には、織豊期の城が数多く築かれた。根来衆の出城として造られた千石堀城は、「根来出城配置図」（江戸時代製作、岸和田市教育委員会蔵）に二重の堀がめぐらされ「今城」と標記されている。また、この一帯は「三ノ丞山」と呼ばれ、江戸時代は三ノ丞大師がまつられ、橋本の清水大師とともに大師信仰の場とされていた。埋蔵文化財包蔵地「千石堀城跡」の範囲に含まれる部分について、平成25年度より遺跡保護、活用のために範囲確認調査をすすめた。

2018-05 区の調査

調査期間 平成31年2月26日、27日、3月1日

調査面積 45.0 m²

今回の調査は、これまで縄張り図で示された千石堀城跡部分の南部、せんごくの杜から南側に抜ける里道横部分で実施した。調査は、第1区～第6区（合計45 m²）を設定して実施した。以下、概要を示す。

第1区

本調査区は里道横付近に設定して調査を実施した。地層堆積状況は、上層より腐植土（1、層厚0.1 m）、にぶい黄褐色土（2、層厚0.2 m）でその下は、明黄褐色土（3）の地山である。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

第2区

本調査区は里道が拡幅されている付近で設定して調査を実施した。地層堆積状況は、上層より腐植土層（1、層厚0.1 m）、にぶい黄褐色土（4、層厚0.4 m）でその下は、明黄褐色土（5）の地山である。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

第3区

本調査区は里道横の造成を受けていると考えられる平坦部で設定して調査を実施した。地層堆積状況は、上層よりにぶい黄褐色土（6、層厚0.25 m）でその下は、にぶい黄褐色土（7）の地山である。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

第4区

本調査区は里道横の造成を受けていると考えられる平坦部で設定して調査を実施した。地層堆積状況は、上層より腐植土層（1、層厚0.05 m）、にぶい黄褐色土（8、層厚0.2 m）でその下は、黄褐色土（9）の地山である。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

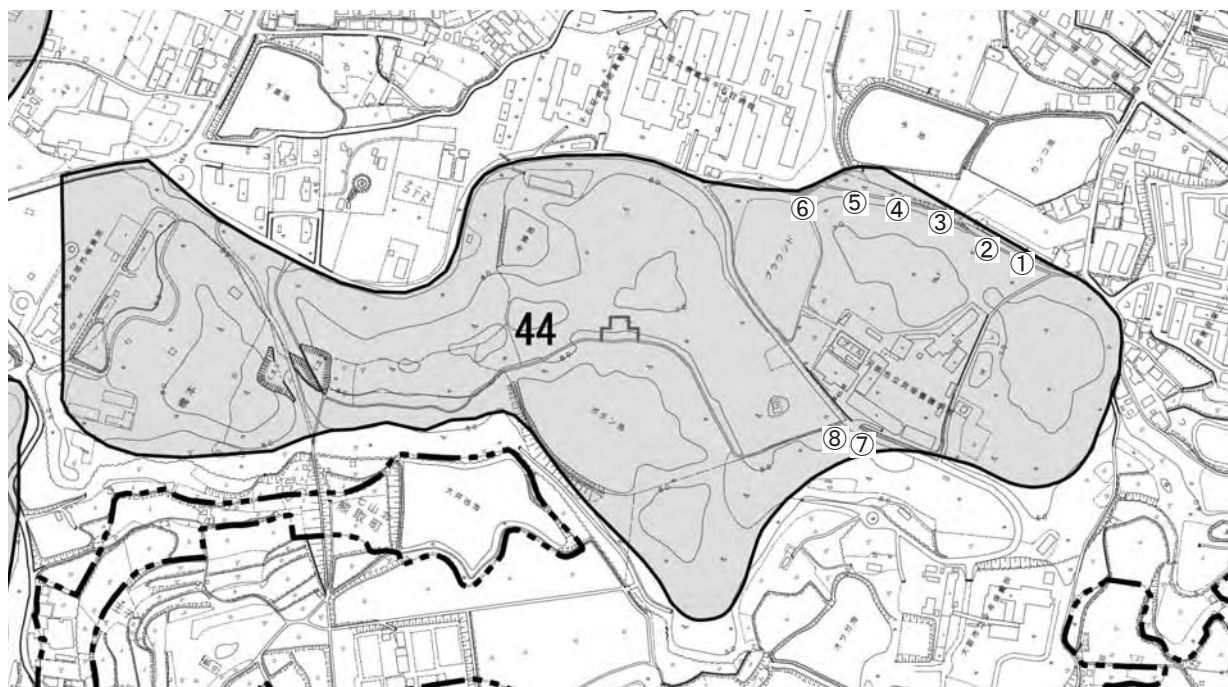


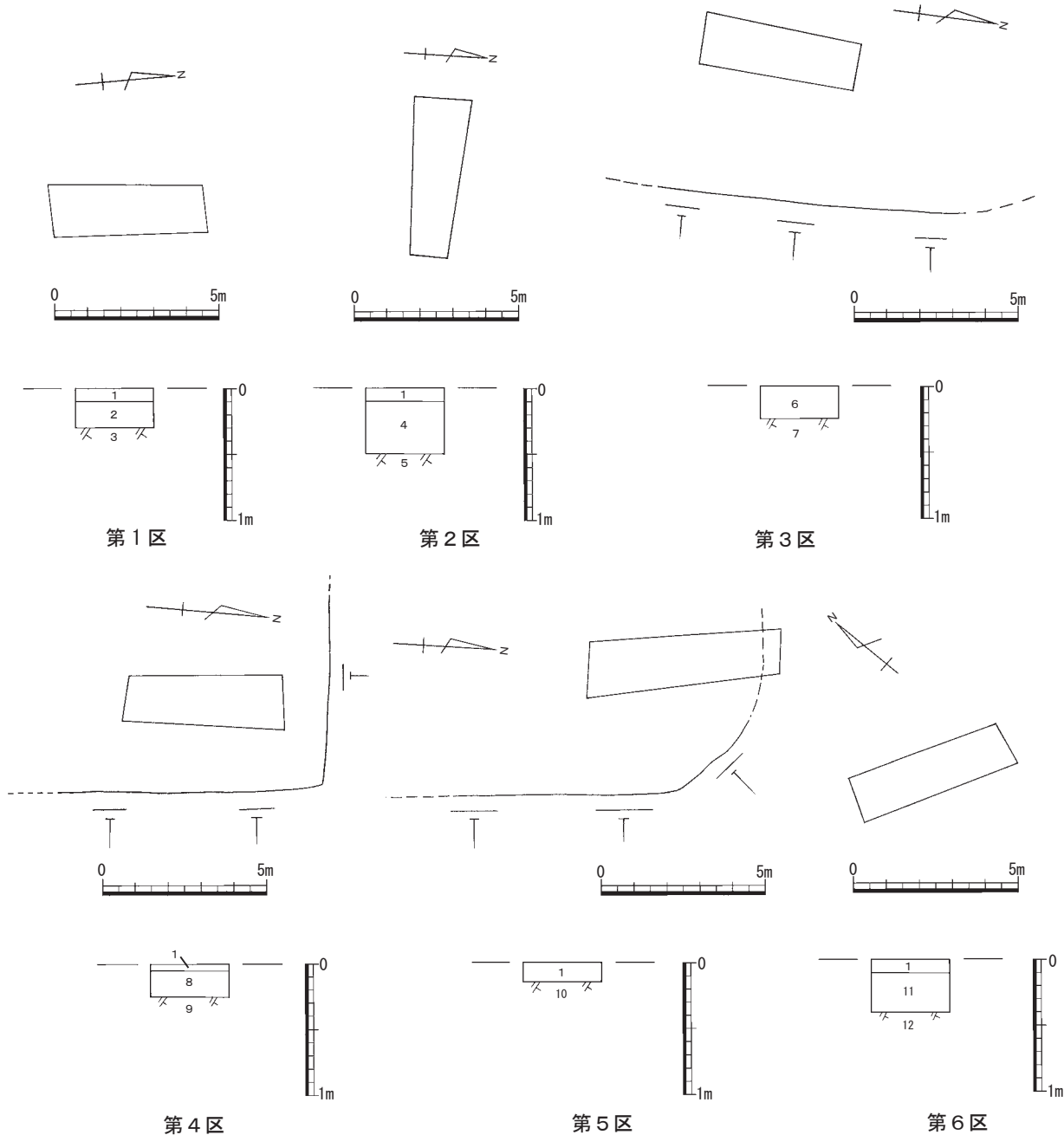
図8 2018-05区（①～⑥）、2018-06区（⑦～⑧）調査区配置図

第5区

本調査区は里道横の造成を受けていると考えられる平坦部で設定して調査を実施した。地層堆積状況は、上層より腐植土層（1、層厚0.05 m）でその下は、明黄褐色土（10）の地山である。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

第6区

本調査区は里道横の平坦部で設定して調査を実施した。地層堆積状況は、上層より腐植土層（1、層厚0.1 m）、にぶい黄褐色土（11、層厚0.3 m）でその下は、明褐色土（12）の地山である。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。



- 1 : 腐植土
- 2 : にぶい黄褐色土 (10YR5/4)
- 3 : 明黄褐色土 (10YR6/6) 地山土
- 4 : にぶい黄褐色土 (10YR6/4)
- 5 : 明黄褐色土 (7.5YR5/6) 地山土
- 6 : にぶい黄褐色土 (10YR5/3)

- 7 : にぶい黄褐色土 (10YR6/4) 地山土
- 8 : にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
- 9 : 黄褐色土 (10YR5/8) 地山土
- 10 : 明黄褐色土 (10YR6/6) 地山土
- 11 : にぶい黄褐色土 (10YR5/4)
- 12 : 明褐色土 (7.5YR5/6) 地山土

図9 2018-05区 第1区～第6区

2018-06 区 の調査

調査期間 平成 31 年 3 月 13 日、14 日

調査面積 19.75 m²

今回の調査は、遺跡南西部に位置する池の跡に調査区(第 1 区、第 2 区、合計 19.75 m²)を設定して実施した。現在、池の水は抜けた状態で何年も経過し、池の底面までは、近接する道路面から、約 7 m 低くなっている。以下、概要を示す。

第 1 区

本調査区は池の南側、堤部分に設定して調査を実施した。地層堆積状況は、上層より腐植土 (1、層厚 0.1 m)、にぶい黄褐色土 (2、層厚 0.6 m) でその下は、明黄褐色土 (3) の地山である。第 4 層～第 6 層は池の堆積層で湧水が激しい。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

第 2 区

本調査区は池の中央部に設定して調査を実施した。地層堆積状況は、上層より腐植土層 (1、層厚 0.3 m) でその下は、灰色土 (7) の地山である。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

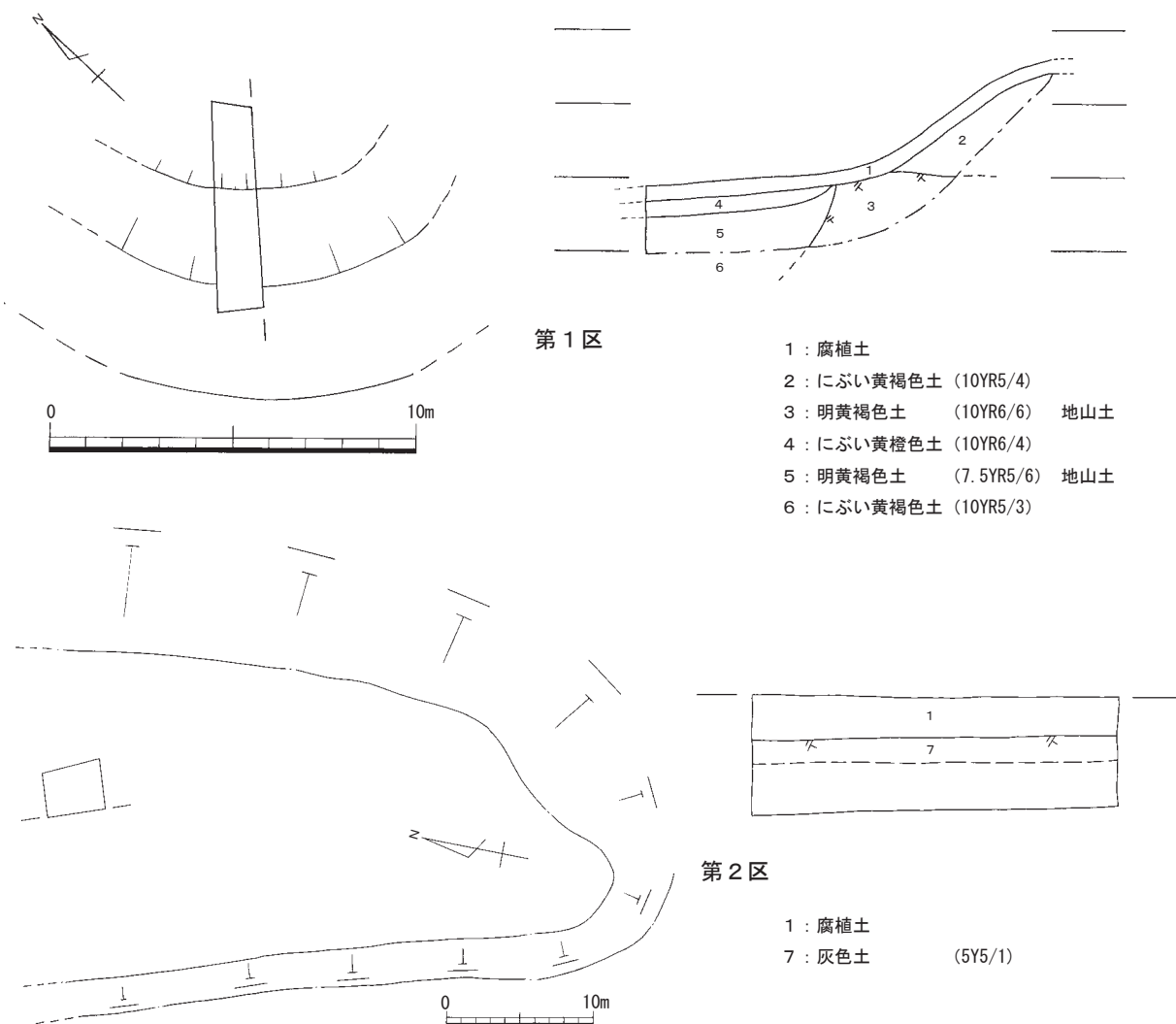


図 10 2018-06 区 第 1 区、第 2 区

6. 遺跡範囲外

2018-03 区の調査

調査期間 平成 31 年 1 月 31 日

調査面積 3.2 m²

今回の調査は、開発地内に調査区 (3.2 m²) を設定して実施した。本調査区の地層堆積状況は、上層より盛土 (1、層厚 0.65 m)、耕作土 (2、層厚 0.05 m)、灰オリーブ色土 (3、層厚 0.3 m)、黄灰色粘土 (4、層厚 0.2 m) である。地層堆積状況から判断して、第 4 層以下は流路堆積層と考えられる。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

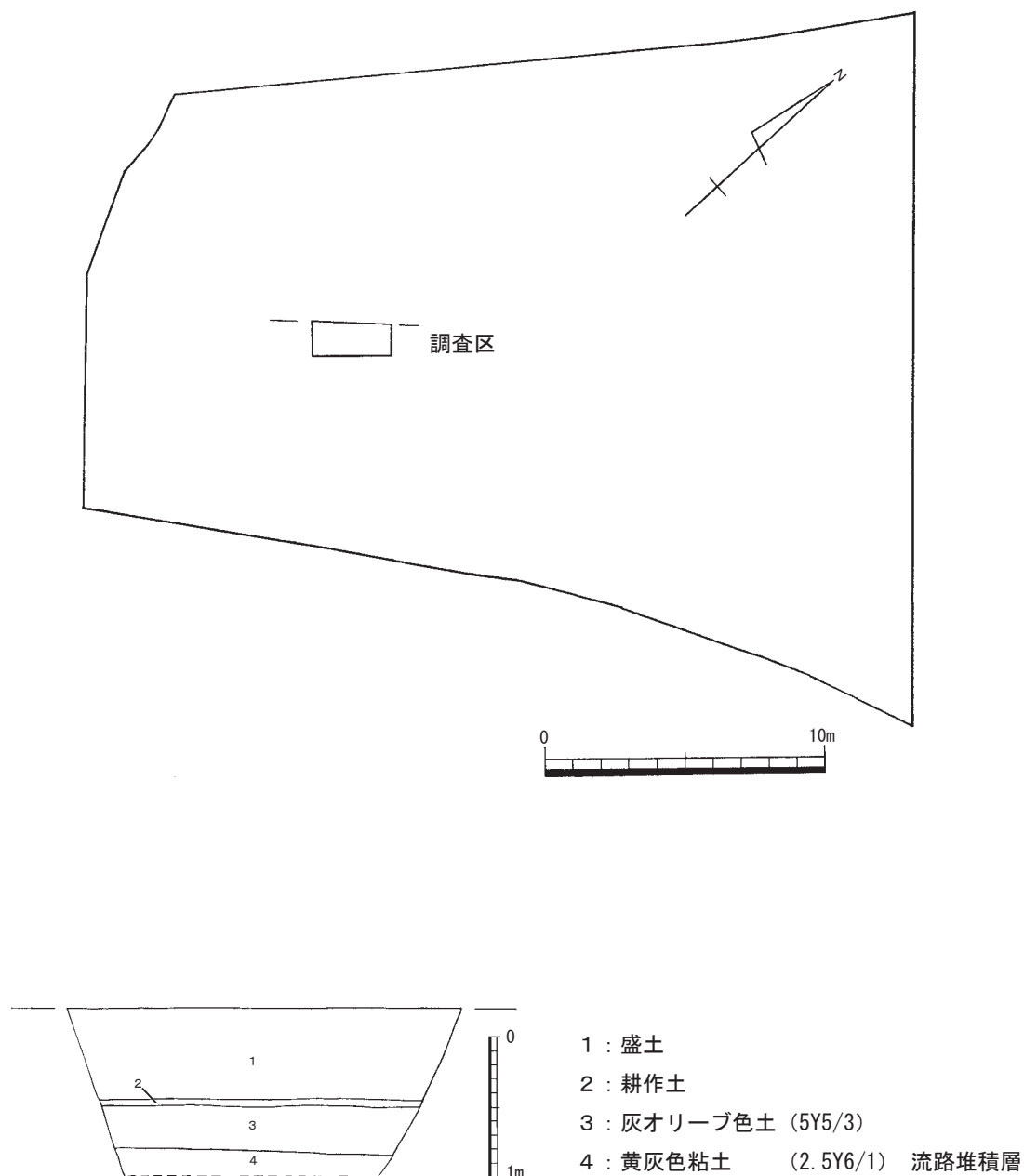


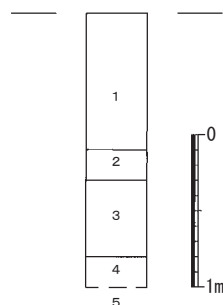
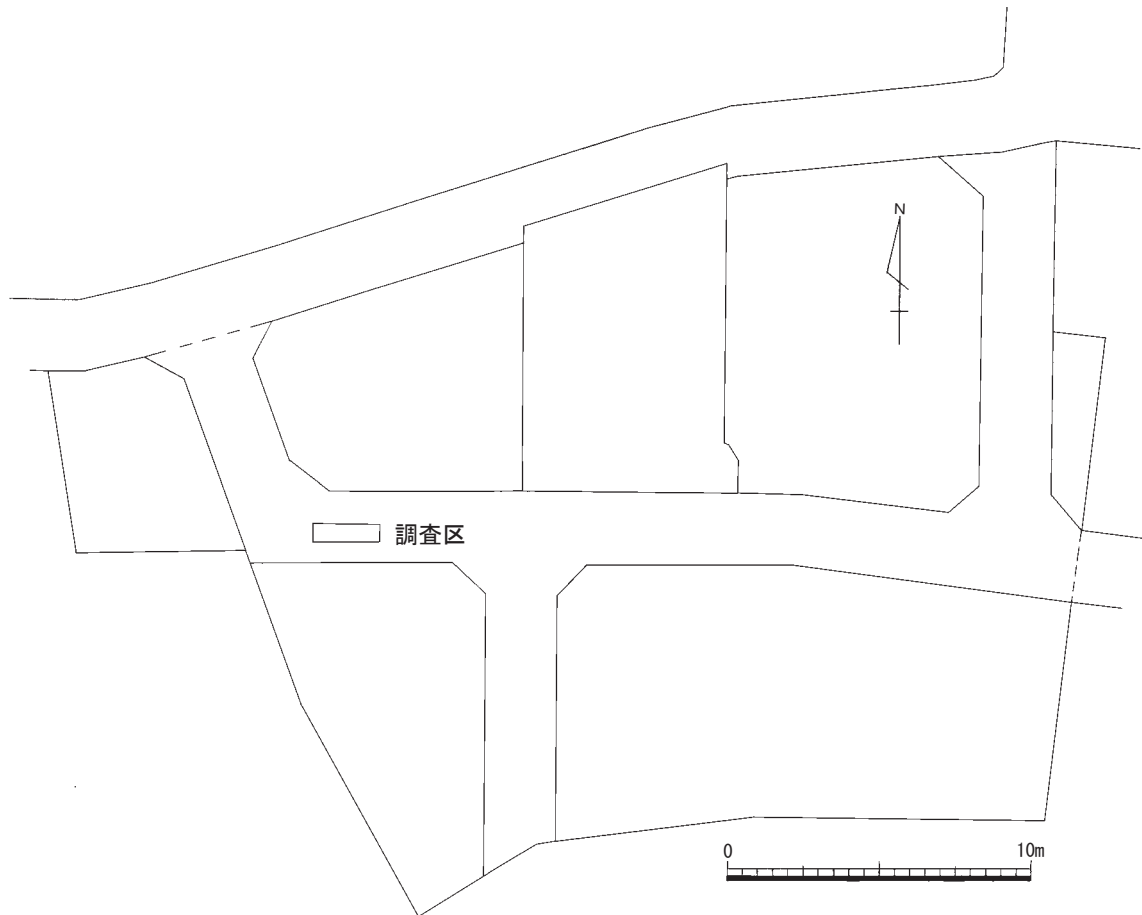
図 11 2018-03 区

2019-01 区の調査

調査期間 令和元年 10 月 18 日

調査面積 5.2 m²

今回の調査は、開発地内に調査区 (5.2 m²) を設定して実施した。本調査区の地層堆積状況は、上層より盛土 (1、層厚 0.9 m)、耕作土 (2、層厚 0.2 m)、灰オリーブ色土 (3、層厚 0.5 m)、黒褐色土 (4、層厚 0.2 m)、褐灰色粗砂 (5) である。地層堆積状況から判断して、第 4 層以下は流路堆積層と考えられる。遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。



- 1 : 盛土
- 2 : 耕作土
- 3 : 灰オリーブ色土 (5Y4/2)
- 4 : 黒褐色土 (10YR3/2) 流路堆積層
- 5 : 褐灰色粗砂 (10YR5/1) 流路堆積層

図 12 2019-01 区

報告書抄録	
ふりがな	かいづかしいせきぐんはくつちょうさがいよう
書名	貝塚市遺跡群発掘調査概要
副書名	
巻次	42
シリーズ名	貝塚市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第 88 集
編著者名	三浦基
編集機関	貝塚市教育委員会
所在地	〒 597-8585 大阪府貝塚市畠中 1-17- 1 Tel 072-423-2151
発行年月日	西暦 2020 年 3 月 31 日

	所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
			市町村	遺跡 番号					
1	遺跡範囲外	大阪府貝塚市 王子	27208	—	34 度 25 分 33 秒	135 度 21 分 07 秒	20190131	3.2	共同住宅
2	石才遺跡	大阪府貝塚市 石才	27208	59	34 度 26 分 06 秒	135 度 21 分 49 秒	20190220	5.2	宅地造成
3	千石堀城跡	大阪府貝塚市 名越他地内	27208	44	34 度 24 分 43 秒	135 度 22 分 26 秒	20190226 ~ 20190301	45.0	発掘調査
4	千石堀城跡	大阪府貝塚市 名越他地内	27208	44	34 度 24 分 43 秒	135 度 22 分 18 秒	20190313 ~ 20190314	19.75	発掘調査
5	遺跡範囲外	大阪府貝塚市 王子	27208	—	34 度 25 分 35 秒	135 度 21 分 04 秒	20191018	5.2	宅地造成
6	小瀬遺跡	大阪府貝塚市 小瀬	27208	87	34 度 26 分 44 秒	135 度 22 分 11 秒	20191101	4.0	共同住宅
7	麻生中下代遺跡	大阪府貝塚市 鳥羽、麻生中	27208	93	34 度 24 分 43 秒	135 度 22 分 18 秒	20191205	9.5	宅地造成
8	小瀬五所山遺跡	大阪府貝塚市 永吉	27208	58	34 度 26 分 58 秒	135 度 22 分 24 秒	20191206	6.0	宅地造成

	所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
1	遺跡範囲外	—	—	—	—	
2	石才遺跡	散布地	縄文時代、平安～中世	—	—	
3	千石堀城跡	城跡	中世	—	—	
4	千石堀城跡	城跡	中世	—	—	
5	遺跡範囲外	—	—	—	—	
6	小瀬遺跡	集落跡	平安～近世	—	—	
7	麻生中下代遺跡	集落跡	古墳～平安時代	—	—	
8	小瀬五所山遺跡	散布地、集落跡	弥生～古墳時代、中世	—	—	

圖 版



石才遺跡 (2018 - 04 区)



小瀬遺跡 (2019 - 02 区)



麻生中下代遺跡 (2019 - 03 区)



小瀬五所山遺跡 (2019 - 04 区)



千石堀城跡 (2018 - 05 区) 第 1 区



千石堀城跡 (2018 - 05 区) 第 2 区



千石堀城跡 (2018 - 05 区) 第 3 区



千石堀城跡 (2018 - 05 区) 第 4 区



千石堀城跡 (2018 - 05 区) 第 5 区



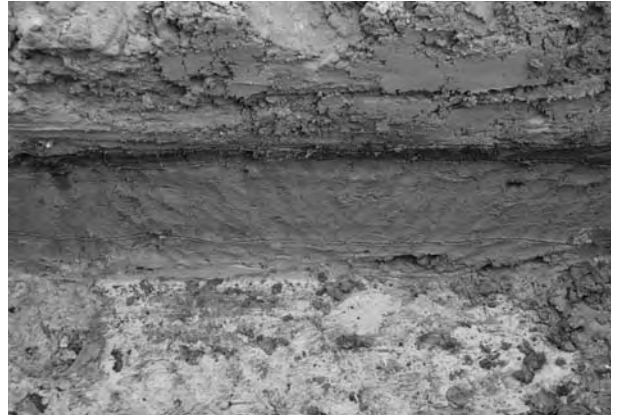
千石堀城跡 (2018 - 05 区) 第 6 区



千石堀城跡 (2018 - 06 区) 第 1 区



千石堀城跡 (2018 - 06 区) 第 2 区



遺跡範囲外 (2018 - 03 区)



遺跡範囲外 (2019 - 01 区)

貝塚市埋蔵文化財発掘調査報告 第88集
貝塚市遺跡群発掘調査概要 42

発行日 令和2（2020）年 3月 31日
編集・発行 貝塚市教育委員会
大阪府貝塚市畠中1丁目 17番1号

